

第14回トキと人の共生を目指した

水辺づくり座談会

開催日時：平成28年5月31日(火) 19:00~21:00

開催場所：トキ交流会館 2F 会議室

参加者：総勢40名(住民等26名、事務局等14名)

座長：関島 恒夫(新潟大学農学部 教授)

天王川自然再生計画の変更(案)について話し合いました



今回の座談会では、これまでの振り返りをしたうえで、中流部の自然再生計画変更(案)について話し合いました。

過去の座談会で検討してきた案に対する、変更(案)のポイントは以下の3点です。

- ① トキの利用：川の両側に湿地を広く確保
- ② ホタルの生息環境：日向・日陰のバランスに配慮
川岸に産卵場所に適した高さを確保
- ③ 水生生物の多様性：湿地と池の連続性を確保し、生物の多様な生息環境を創造



中流部自然再生計画の模型

第14回座談会で確認したこと



- 天王川中流部については、今回提示した自然再生計画の変更(案)が地域住民から了承され、アドバイザー会議で専門的な意見をいただくことを確認しました。
- 天王川中流部の自然再生計画の維持管理、利活用などについては、今後も座談会を通じて意見交換を実施することを確認しました。



座談会での話し合いの様子

問い合わせ先 新潟県佐渡地域振興局地域整備部

担当：計画調整課 水倉、高澤

TEL:0259-74-4040 FAX:0259-74-2048 E-mail:takasawa.hiroshi@pref.niigata.lg.jp

座談会でいただいた主なご意見・ご質問



【主なご意見】

- ・地元の人に関心を持てるしくみづくりが必要である。
- ・長期的に県が中心軸になりながら、地域住民と関わっていくことが必要である。
- ・ベンチや東屋などを設置するなど、親水の場としての整備活用を、今後も話し合っていくべき。
- ・将来に向けてこの計画をどうやって使っていくのかという、「魂」を入れていく作業が必要である。
- ・事業者は、この事業に対して哲学を持つべきである。
- ・中流部だけでなく、もっと広がりを持たせることが大切である。
- ・小さな子供などの利用を考えると、現地までの道路やトイレなどの整備も検討する必要がある。
- ・天王川をきっかけに環境の要素を取り入れた治水事業を広げてもらいたい。
- ・県の河川改修工事の際、自然再生のモデル河川として、天王川がなればよいと思う。

【主なご質問と回答】

- ・工事期間中の濁水対策はどうなるのか？
⇒沈砂池やシルトフェンスを設置するなど、可能な限り対策を行います。
- ・施工後、整備した水辺に何か問題が生じた場合はどうするのか？
⇒整備後も確認を継続しながら、順応的に管理して行きます。
- ・工事や維持管理費用はどの程度か？
⇒費用については、今後、詳細設計や維持管理手法の検討を行ったうえで算定されます。
- ・今後の工事のタイムスケジュールは？
⇒工事については、できれば年内に試験施工に着手したいと考えています。
- ・アドバイザー会議で、この計画の変更(案)が了承されれば、今後座談会は開催しないのか？
⇒今後も座談会は継続するので、アドバイザー会議の結果についても、適宜ご報告します。

今後の座談会について



今後の座談会では、より多くの関係者に集まっていただき、アドバイザー会議での意見について報告し、継続して天王川中流部の自然再生計画について意見交換を行います。